

新千歳空港の深夜・早朝時間帯を活用した実証運航について

(平成26年7月・8月・9月実施)

1 実証運航の概要

新千歳空港の深夜・早朝時間帯(22時～翌7時)の運航枠6枠のうち、土・日・祝日及びお盆時期等に運休している国内貨物便の発着枠(2枠)を活用し、運航枠(現行6枠)拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた課題を検討するために旅客便の実証運航をする。(平成24年度より実施)

2 7月の実証運航結果

【運航の内容】

- ・ 運航日
平成26年7月21日(月)、7月27日(日)
- ・ 運航時間・区間(各日1便)
新千歳22:00発→羽田23:35着(現行の最終便 新千歳21:45発)
- ・ 運航会社
日本航空(株) (運航は(株)ジェイエア)
- ・ 運航機材
E170 座席数76名
- ・ 搭乗率
21日:約8割、27日:約9割

【検証事項】

- ・ 羽田到着後の交通アクセスなど、枠拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた課題。

(1) 実証の結果

- ターミナルビル等の営業体制
通常(新千歳空港発21:45が最終便)の営業で対応可能であったため、ターミナルビル、テナントの店舗で営業時間の延長はしていない。
- 交通アクセス
(新千歳空港までの交通アクセス)
 - ・ 公共交通機関が稼働している時間帯であり、通常の体制。
(新千歳空港到着後の交通アクセス)
 - ・ 羽田空港到着後の東京における交通アクセスについては、羽田到着が23:35であり、羽田からの公共交通機関が利用できる時間帯であった。

※ 羽田空港発の公共交通機関の最終ダイヤ(土日休日)

京浜急行電鉄	品川行	24:00発	神奈川新町行	23:49発
東京モノレール	浜松町行	24:05発	(空港第2ターミナル駅発時間)	
バス	横浜行	23:50発	(空港第2ターミナル発 京浜急行バス)	
〃	北千住行	23:50発	〃	東武バス
〃	大宮駅行	23:50発	〃	西武バス

(2) 利用者アンケート結果

7月27日の運航便の搭乗者を対象に、道からジェイエアに依頼して、深夜便や新千歳空港の利便性などに関する利用者アンケートを実施した。回答者数は42名。

※ 主な回答の抜粋（回答率が5%未満のもの、「その他」や「無回答」等は一部を除き掲載を省略）

利用者の住所	利用者の職業
道外 90.5% 道内 4.8%	会社員・会社役員 57.1% 公務員 16.7% 学生 11.9% 自営業 7.1%
移動の目的	深夜便を利用した理由(複数回答)
観光 57.1% ビジネス 19.0% 帰省 7.1% 親戚・友人等訪問 7.1%	北海道での滞在時間を有効に使える 42.9% 他便が満席であった 35.7% 航空運賃が安かった 28.6% 明朝早くから渡航先で予定がある 9.5%
飛行機を降りた後の目的地	羽田から目的地に行く交通手段
東京都内 61.9% 東京都以外 35.7%	鉄道(京急) 40.5% 自家用車 28.6% モノレール 21.4% バス 2.4%
仮に当便が羽田到着後、公共交通機関を使えない時間の便であれば、利用したか(羽田から目的地まで公共交通機関を利用した人への問)	新千歳空港にはどちらから来たのか
利用した 22.2% 利用しなかった 74.1%	札幌方面 85.7% 苫小牧方面 4.8%
新千歳空港までの交通手段	新千歳空港には何時頃に到着したか
JR 66.7% レンタカー 21.4% バス 2.4%	19時前 21.4% 19時~20時 19.0% 20時~21時 23.8% 21時以降 11.9%
新千歳空港で利用した店(複数回答)	新千歳空港で夜遅く(21時以降)まで開いていれば利用すると思う店(複数回答)
土産店 42.9% 飲食店 38.1% コンビニ・ドラッグストア 16.7% 搭乗待合ロビーの売店 16.7% 利用していない 4.8%	土産店 50.0% 飲食店 40.5% コンビニ・ドラッグストア 26.2% 早く空港に来るので営業時間の延長不要 7.1%

深夜・早朝に新千歳空港を離発着する便が現在以上に増えれば利用したいと思うか	深夜・早朝に新千歳空港に離発着する便が設定されれば利用したいと思う路線（深夜早朝時間帯の便を利用したいと回答した方への問・複数回答）
深夜便を利用したい 16.7% 早朝便を利用したい 2.4% 深夜便も早朝便も利用したい 28.6% 利用したくない 14.3%	深夜便 新千歳 →羽田 95.0% " " →関西・伊丹 5.0% " 羽田 →新千歳 25.0% 早朝便 新千歳 →羽田 60.0% " " →関西・伊丹 5.0% " 羽田 →新千歳 25.0% " 関西・伊丹→新千歳 5.0%

- ・ 利用者の約9割が道外居住者である。道内での観光、ビジネスの帰路に、当便が利用されたことが分かる。深夜便を利用した理由は、北海道での滞在時間を有効に使える、他便が満席であった、航空運賃が安かったことを挙げる人が多い。
- ・ 飛行機を降りた後の目的地は、東京都内が半数以上を占める。
- ・ 当便は、羽田空港到着後に公共交通機関が利用できる時間設定であったことから、羽田空港から目的地に至る交通手段は鉄道（京急）が約4割と最も多く、次いで自家用車の約3割、モノレールの約2割の順である。
- ・ 仮に当便が羽田空港到着後に公共交通機関を利用できない便だとすれば利用したかとの間に対しては、羽田空港から公共交通機関を利用した乗客の7割以上は利用しなかったと回答している。
- ・ 新千歳空港には、札幌方面から来た利用者が約8割5分を占める。新千歳空港までの交通手段はJR、レンタカーが多い。
- ・ 新千歳空港に到着した時間は、出発時刻（22：00）の1～2時間前である20時～21時が最も多く、19時前、19時～20時が続く。
- ・ 新千歳空港での利用店は、土産店、飲食店、コンビニ・ドラッグストア、待合搭乗ロビーの売店が多く、夜遅くまで開いていれば利用すると思う店は、土産店、飲食店、コンビニ・ドラッグストアという回答が多い。
- ・ 深夜・早朝時間帯の離発着便が増えた時の利用意向は、利用に肯定的な意見が約5割、否定的な意見が1割5分で、肯定的な意見が多い。
- ・ 深夜・早朝時間帯に新たに設定されれば利用したい路線は、深夜便が新千歳→羽田、羽田→新千歳、早朝便が新千歳→羽田、羽田→新千歳の路線を望む声が多い。

■ 利用者からの意見

（空港ビルの営業時間の延長について）

- ・ 新千歳空港内の店舗の営業時間の延長を望む意見あり。
- （実証運航についての評価）
- ・ 深夜時間帯の運航により時間を有効に使えることを評価する意見あり。

3 8月の実証運航結果

【運航の内容】

- ・ 運航日
平成26年8月15日(金)、8月16日(土)、8月17日(日)
- ・ 運航時間・区間 (各日2便)
新千歳22:00発→羽田 23:40着 (現行の最終便 新千歳21:45発)
羽田 21:30発→新千歳23:05着 (現行の最終便 新千歳22:35着)
- ・ 運航会社
(株) AIRDO
- ・ 運航機材
B737-500 座席数126名
- ・ 搭乗率 (往路と復路を合わせて)
15日(金) 約9割、16日(土) 約9割、17日(日) 約9割

【検証事項】

- ・ ターミナルビル等の営業時間の延長、交通アクセスなど、枠拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた課題。

(1) 実証の結果

- ターミナルビルの営業体制
 - ・ 国内線ターミナルビルの閉館時間を延長して対応 (23:00→23:30)
 - ・ 店舗営業時間の延長 (ホールディングルーム内1か所が最終便まで営業、到着口前コンビニエンスストア1か所が21:00→23:30まで延長)

運営上の問題は特になし。店舗運営者から、深夜時間帯において公共交通機関がないことを課題とする意見あり。

- 交通アクセス
(羽田空港・新千歳空港までの交通アクセス)
 - ・ 公共交通機関が稼働している時間帯であり、通常の体制。

(羽田空港到着後の交通アクセス)

※ 前記7月の実証運航と同様。

(新千歳空港到着後の交通アクセス)

- ・ 北都交通(株)が新千歳空港発の札幌都心行きバスを各日1便増便。

バス運行会社から、航空機利用者に対するバス利用者の割合が低い、札幌到着後の公共交通機関がないことを課題とする意見あり。

(2) 利用者アンケート結果

8月17日(新千歳着便のみ)の運航便の搭乗者を対象に、道からAIRDOに依頼して、深夜便や新千歳空港の利便性などに関する利用者アンケートを実施した。回答者数は90名。

※ 主な回答の抜粋(回答率が5%未満のもの、「その他」や「無回答」等は一部を除き掲載を省略)

利用者の住所	利用者の職業
道内 67.8% 道外 31.1%	会社員・会社役員 65.6% 学生 11.1% 主婦 10.0%
移動の目的	深夜便を利用した理由(複数回答)
帰省 36.7% 観光 30.0% 親戚・友人訪問 13.3% ビジネス 10.0%	時間を有効に使える 57.8% 航空運賃が安かった 52.2% 札幌市までの臨時バスが運行されるから 6.7%
飛行機を降りた後の目的地	千歳市や苫小牧市等に行く目的(目的地を札幌市と回答した人以外への問)
札幌市 62.2% 千歳市 13.3% 苫小牧市 7.8%	自宅がある、又は仕事・用事がある 70.6% 今夜はそこで宿泊して、明日、道内の別の目的地に向かうため 14.7% 観光旅行の目的地であるため 8.8%
目的地までの交通手段	仮に札幌への臨時バスが運行されなかったら当便を利用したか(目的地まで路線バスを使うと回答した人への問)
自家用車 36.7% 路線バス(札幌までの臨時便) 26.7% 親戚・友人の出迎え 11.1% タクシー 10.0%	利用した 20.8% 利用しなかった 66.7%
目的地まで自家用車を使う理由(目的地まで自家用車を使うと回答した方への問)(複数回答)	新千歳空港に着いた時に開いていれば使いたいと思う店(複数回答)
自家用車利用の方が安いから 39.4% 荷物が多い、子連れなどの理由で自家用車の方が便利 21.2% 自宅と駅・バス停間の交通手段がない 21.2% 札幌行の臨時バスの運行を知らなかった 18.2% 札幌から乗り継げる交通手段がない 18.2%	コンビニ・ドラッグストア 68.9% 飲食店 24.4% 買物・飲食しない 22.2% 土産品 12.2%
あれば利用したい交通機関の手段(複数回答)	あれば利用したい交通機関の手段(複数回答)
JR 60.0% バス 16.7%	札幌方面 55.6% 苫小牧方面 4.4%

深夜・早朝に新千歳空港を離発着する便が現在以上に増えれば利用したいと思うか	深夜・早朝に新千歳空港に離発着する便が設定されれば利用したいと思う路線（深夜早朝時間帯の便を利用したいと回答した方への問・複数回答）
深夜便を利用したい 20.0% 早朝便を利用したい 2.2% 深夜便も早朝便も利用したい 44.4% 利用したくない 6.7%	深夜便 新千歳 →羽田 71.7% " " →中部 5.0% " " →関西・伊丹 6.7% " 羽田 →新千歳 68.3% " 成田 →新千歳 16.7% " 中部 →新千歳 6.7% " 関西・伊丹→新千歳 10.0% 早朝便 新千歳 →羽田 55.0% " " →成田 15.0% " " →中部国際 8.3% " " →関西・伊丹 10.0% " " →福岡 5.0% " " →その他国内 6.7% " 羽田 →新千歳 46.7%

- ・ 利用者の約7割が道内居住者である。東京などでの帰省、観光、親戚・友人訪問の帰路に、当便が利用されたことが分かる。深夜便を利用した理由は、時間を有効に使える、航空運賃が安かったことを挙げている人が多い。
- ・ 飛行機を降りた後の目的地は、札幌市が約6割を占める。目的地までの移動手段は、自家用車（約4割）、臨時増便された路線バス（約3割）が多い。札幌市に向かう人では、路線バスの利用率は約4割で、自家用車と同数（21人）である。
- ・ 新千歳空港に到着した時に開いていけば使いたいと思う店は、コンビニ・ドラッグストア、飲食店が多い。
- ・ 利用したいと思う交通手段は、JRが約6割、バスが約2割であり、札幌方面が約6割となっている。
- ・ 臨時バスの利用者に、仮にバスが無かった場合、この実証運航便を利用したか否かを聞いたところ、約7割の方が臨時バスがなければ利用しなかったと回答している。
- ・ 深夜・早朝時間帯の離発着便が増えた時の利用意向は、利用に肯定的な意見が約7割、否定的な意見は1割以下である。
- ・ 深夜・早朝時間帯に新たに設定されれば利用したい路線は、深夜便が新千歳→羽田、羽田→新千歳、成田→新千歳、早朝便が新千歳→羽田、新千歳→成田、羽田→新千歳の路線を望む声が多い。

■ 利用者からの意見（8月17日 新千歳着便）

（交通アクセスについて）

- ・ JR等の深夜時間帯における交通アクセスの充実を望む意見あり。
- （実証運航についての評価）
- ・ 深夜時間帯の運航により、東京で余分に泊まる必要がないこと、東京でイベントを最後まで楽しめたことなど、深夜便の運航を評価する意見あり。
 - ・ 深夜時間帯なので、交通機関や空港の混雑を避けられる点を評価する意見あり。

4 9月の実証運航結果

【運航の内容】

- ・ 運航日
平成26年9月14日(日)、9月15日(月)
- ・ 運航時間・区間 (各日2便)
新千歳22:00発→羽田 23:40着 (現行の最終便 新千歳21:45発)
羽田 21:30発→新千歳23:05着 (現行の最終便 新千歳22:35着)
- ・ 運航会社
(株) AIRDO
- ・ 運航機材
B737-500 座席数126名
- ・ 搭乗率 (往路と復路を合わせて)
14日(日)約9割、15日(月)約9割

【検証事項】

- ・ ターミナルビル等の営業時間の延長、交通アクセスなど、枠拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた課題。

(1) 実証の結果

- ターミナルビルの営業体制
※ 前記8月の実証運航と同様

- 交通アクセス
(羽田空港・新千歳空港までの交通アクセス)
※ 前記8月の実証運航と同様

- (羽田交通到着後の交通アクセス)
※ 前記7月・8月の実証運航と同様

- (新千歳空港到着後の交通アクセス)
・ 北海道中央バス(株)が新千歳空港発の札幌都心行きバスを各日1便増便。

バス運行会社から、臨時バスの運行を知らない利用者が多いこと、航空機利用者数に対しバス利用者の数が少ないこと、深夜時間帯の運行について、他の時間帯と異なり、代替する交通手段がないことから、利用者がバスの収容人数を超えた場合のリスクを課題とする意見あり。

(2) 利用者アンケート結果

9月15日の運航便の搭乗者を対象に、道からAIRDOに依頼して、深夜便や新千歳空港の利便性などに関する利用者アンケートを実施した。

- ※ 主な回答の抜粋 (回答率が5%未満のもの、「その他」や「無回答」等は一部を除き掲載を省略)

① 新千歳空港発便（新千歳 22:00→羽田 23:40）回答者 70 人

利用者の住所	利用者の職業
道外 88.6% 道内 7.1%	会社員・会社役員 68.6% 学生 7.1% 公務員 5.7%
移動の目的	深夜便を利用した理由(複数回答)
観光 32.9% 帰省 25.7% 親戚・友人等訪問 21.4% ビジネス 5.7%	北海道での滞在時間を有効に使える 61.4% 航空運賃が安かった 50.0% 他便が満席であった 21.4%
飛行機を降りた後の目的地	羽田から目的地に行く交通手段
東京都内 62.9% 東京都以外 35.7%	鉄道(京急) 34.3% モノレール 25.7% 自家用車 22.9% バス 12.9%
仮に当便が羽田到着後、公共交通機関を使えない時間の便であれば、利用したか(羽田から目的地まで公共交通機関を利用した人への問)	新千歳空港にはどちらから来たのか
利用した 21.6% 利用しなかった 78.4%	札幌方面 88.6% 苫小牧方面 2.9%
新千歳空港までの交通手段	新千歳空港には何時頃に到着したか
JR 44.3% レンタカー 24.3% 自家用車 8.6% バス 7.1%	19時前 25.7% 19時～20時 25.7% 20時～21時 31.4% 21時以降 17.1%
新千歳空港で利用した店(複数回答)	新千歳空港で夜遅く(21時以降)まで開いていれば利用すると思う店(複数回答)
飲食店 47.1% 土産店 52.9% コンビニ・ドラッグストア 10.0% 搭乗待合ロビーの売店 21.4% 利用していない 21.4%	飲食店 62.9% 土産店 80.0% コンビニ・ドラッグストア 31.4% 早く空港に来るので営業時間の延長不要 2.9%
深夜・早朝に新千歳空港を離発着する便が現在以上に増えれば利用したいと思うか	深夜・早朝に新千歳空港に離発着する便が設定されれば利用したいと思う路線(深夜早朝時間帯の便を利用したいと回答した方への問・複数回答)
深夜便を利用したい 18.6% 早朝便を利用したい 10.0% 深夜便も早朝便も利用したい 51.4% 利用したくない 7.1%	深夜便 新千歳 →羽田 61.4% " 羽田 →新千歳 48.6% " 成田 →新千歳 10.0% 早朝便 新千歳 →羽田 41.4% " " →成田 8.6% " 羽田 →新千歳 40.0%

- ・ 利用者の約9割が道外居住者である。道内での観光、帰省、親戚・友人等訪問の帰路に、当便が利用されたことが分かる。深夜便を利用した理由は、北海道での滞在時間を有効に使える、航空運賃が安かった、他便が満席であったことを挙げる人が多い。
- ・ 飛行機を降りた後の目的地は、東京都内が約6割を占める。
- ・ 当便は、羽田空港到着後に公共交通機関が利用できる時間設定であったことから、羽田空港から目的地まで至る交通手段は鉄道(京急)が約3割5分と最も多く、次いでモノレールの約2割5分、自家用車の約2割、バスの約1割の順である。
- ・ 仮に当便が羽田到着後に公共交通機関を利用できない便だとすれば利用したかとの間に対しては、羽田から公共交通機関を利用した乗客の約8割は利用しなかったと回答している。
- ・ 新千歳空港には、札幌方面から来た利用者が約9割を占める。新千歳空港までの交通手段は、JR、レンタカーが多い。
- ・ 新千歳空港に到着した時間は、出発時刻(22:00)の1~2時間前である20時~21時が最も多く、19時前と19時~20時が続く。
- ・ 新千歳空港での利用店は、土産店、飲食店、待合搭乗ロビーの売店、コンビニ・ドラッグストアが多く、一方で、利用していないと回答する人が2割弱となっている。
- ・ 夜遅くまで開いていれば利用すると思う店は、土産店、飲食店、コンビニ・ドラッグストアという回答が多い。
- ・ 深夜・早朝時間帯の離発着便が増えた時の利用意向は、利用に肯定的な意見が8割、否定的な意見が1割以下で、肯定的な意見が多い。
- ・ 深夜・早朝時間帯に新たに設定されれば利用したい路線は、深夜便が新千歳→羽田、羽田→新千歳、早朝便が新千歳→羽田、羽田→新千歳の路線を望む声が多い。

■ 利用者からの意見(9月15日 新千歳発便)

(ターミナルビル等の営業延長の延長について)

- ・ 新千歳空港内の店舗営業時間の延長を望む意見あり。
(実証運航についての評価)
- ・ 深夜便によって、北海道への滞在時間が長く時間を有効に使えることに対し評価する意見あり。
- ・ チェックインや荷物を預けるときに混雑を避けられる点を評価する意見あり。

② 新千歳空港着便(羽田21:30→新千歳23:05) 回答者62人

利用者の住所	利用者の職業
道内 91.9% 道外 3.2%	会社員・会社役員 54.8% 主婦 12.9% 自営業・自由業 8.1% 公務員 6.5%
移動の目的	深夜便を利用した理由(複数回答)
観光 38.7% 親戚・友人訪問 24.2% ビジネス 14.5% 帰省 12.9%	時間を有効に使える 74.2% 航空運賃が安かった 27.4% 札幌市までの臨時バスが運行されるから 8.1% 他便が満席であった 6.5%

飛行機を降りた後の目的地	千歳市や苫小牧市等に行く目的（目的地を札幌市と回答した人以外への問）
札幌市 56.5% 苫小牧市 6.5% 千歳市 4.8%	自宅がある、又は仕事・用事がある 100%
目的地までの交通手段	仮に札幌への臨時バスが運行されなかったら当便を利用したか（目的地まで路線バスを使うと回答した人への問）
自家用車 61.3% 路線バス（札幌までの臨時便） 21.0% タクシー 8.1%	利用した 38.5% 利用しなかった 38.5%
目的地まで自家用車を使う理由（目的地まで自家用車を使うと回答した方への問）（複数回答）	新千歳空港に着いた時に開いていれば使いたいと思う店（複数回答）
自家用車利用の方が安いから 31.6% 自宅と駅・バス停間の交通手段がない 28.9% 荷物が多い、子連れなどの理由で自家用車の方が便利 26.3% 札幌から乗り継げる交通手段がない 18.4% 札幌行の臨時バスの運行を知らなかった 15.8%	コンビニ・ドラッグストア 66.1% 飲食店 30.6% 土産品 27.4% 買物・飲食しない 12.9%
あれば利用したい交通機関の手段（複数回答）	あれば利用したい交通機関の手段（複数回答）
JR 62.9% バス 35.5%	札幌方面 61.3% 苫小牧方面 9.7%
深夜・早朝に新千歳空港を離発着する便が現在以上に増えれば利用したいと思うか	深夜・早朝に新千歳空港に離発着する便が設定されれば利用したいと思う路線（深夜早朝時間帯の便を利用したいと回答した方への問・複数回答）
深夜便を利用したい 32.3% 早朝便を利用したい 4.8% 深夜便も早朝便も利用したい 50.0% 利用したくない 6.5%	深夜便 新千歳 →羽田 66.1% " " →中部 12.9% " " →関西・伊丹 25.8% " " →海外空港 6.5% " 羽田 →新千歳 58.1% " 成田 →新千歳 12.9% " 中部 →新千歳 14.5% " 関西・伊丹→新千歳 21.0% " 福岡 →新千歳 6.5% 早朝便 新千歳 →羽田 59.7% " " →成田 11.3% " " →中部国際 11.3% " " →関西・伊丹 16.1% " " →福岡 8.1% " " →その他国内 6.5% " 羽田 →新千歳 33.9% " 関西・伊丹→新千歳 8.1%

- ・ 利用者の約9割が道内居住者である。東京などでの観光、親戚・友人訪問、ビジネス等の帰路に、当便が利用されたことが分かる。深夜便を利用した理由は、時間を有効に使える、航空運賃が安かったことを挙げている人が多い。
- ・ 飛行機を降りた後の目的地は、札幌市が約6割を占める。目的地までの移動手段は、自家用車(約6割)、臨時増便された路線バス(約2割)が多い。札幌市に向かう人では、路線バスの利用率は約4割で、自家用車とほぼ同等である。
- ・ 新千歳空港に到着した時に開いていけば使いたいと思う店は、コンビニ・ドラッグストア、飲食店、土産店が多い。
- ・ 利用したいと思う交通手段は、JRが約6割、バスが約3割5分であり、札幌方面が約6割となっている。
- ・ 臨時バスの利用者に、仮にバスが無かった場合、この実証運航便を利用したか否かを聞いたところ、臨時バスの運行に関わらず利用した人と、臨時バスがなければ利用しなかった人が同数(各約4割)である。
- ・ 深夜・早朝時間帯の離発着便が増えた時の利用意向は、利用に肯定的な意見が約9割で、否定的な意見は1割以下である。
- ・ 深夜・早朝時間帯に新たに設定されれば利用したい路線は、深夜便が新千歳→羽田、羽田→新千歳、新千歳→関西・伊丹、関西・伊丹→新千歳、早朝便が新千歳→羽田、羽田→新千歳、新千歳→関西・伊丹の路線を望む声が多い。

■ 利用者からの意見(9月15日 新千歳着便)

(交通アクセスについて)

- ・ JR等の深夜時間帯における交通アクセスの充実を望む意見あり。
- ・ 新千歳空港等の駐車場が混雑しているとの意見あり。

(実証運航についての評価)

- ・ 深夜時間帯の運航により、時間を有効に使えたこと、遅い時間まで開演されるイベントに最後まで参加できたこと、遅い時間まで知人と過ごすことができたことなど、深夜便の運航を評価する意見あり。
- ・ 深夜時間帯なので、交通機関や空港の混雑がなく、余計な時間を取られない点を評価する意見あり。

5 実証運航の評価と枠拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた主な課題等

<実証運航の評価>

- 実証運航便の乗客アンケートにおいて、深夜・早朝便に対し肯定的な意見が多数を占めており、深夜・早朝時間帯の運航に対するニーズの高さを、昨年に引き続き確認した。
- 乗客アンケートでは、深夜便の利用により時間をより有効に活用できること、東京でのイベントを十分楽しんだ後に当日中に北海道に帰宅できることなど、新千歳空港の深夜・早朝時間帯の発着枠拡大後における道民生活の利便性の向上を確認した。

<ターミナルビル等の営業時間の延長に関する課題>

- 深夜時間帯における各店舗の営業時間の延長に対する利用者のニーズは高く、昨年の実証運航の検証結果と同様、営業時間の延長のためには旅客便利用者による需要があることが前提となり、ある程度まとまった時間帯における旅客便発着回数(利用者)が必要となる。また、店舗の営業時間の延長には、運営コスト(従業員の通勤費用)の縮減のため、交通アクセスの改善が求められる。

<交通アクセスの改善に関する課題>

- 今回の新千歳空港発の実証運航便は、羽田空港到着後に公共交通機関が利用できる時間設定で運航されたことから、搭乗率は高く、乗客アンケートでも概ね好評であった。到着地において利用できる公共交通機関の有無が、個人旅行客の深夜便の利用に大きな影響があることが確認され、新千歳空港の深夜時間帯の発着枠拡大後に、路線誘致を行う際に留意することが必要となる。
- 昨年の実証運航結果に引き続き、新千歳空港からの公共交通機関(JR・バス)の空港ターミナルにおける運行ダイヤの充実(終発時間の後ろ倒しなど)が必要である。交通アクセス改善のためにも、旅客便利用者による需要があることが前提となるが、そのためには、ある程度まとまった時間帯における旅客便発着回数(利用者)が必要となる。
- 新千歳空港からの交通アクセスとして、バスの臨時増便により対応したが、各日の航空機の利用者に対しバス利用者が少ないとのバス運行会社の評価があり、その原因としては、利用者に対する周知の不足や、バスを降りた後に乗り継ぐ交通機関の不足が考えられる。

新千歳空港周辺対策グループ
電話 011-204-5956